

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

発行部数14万部
非売品(季刊)

2024.7.20 Summer

No.

83

NEWS



2024年度 ヤマト福祉財団 助成金贈呈式
「障がい者給料増額支援助成金」を全国34事業所に
**新規事業や生産性向上に
必要な支援を**

助成先レポートVol.49
(一社)ローランズプラス

咲き方、水の吸いあげ、花はそれぞれ。つぼみの歳月も大切な時間。



Profile

東北大学大学院歯学研究科博士課程修了 東北福祉大学名誉教授 平成21年より(福)日本身体障害者団体連合会理事、23年から同連合会副会長、28年から同連合会会長に就任。全国ポリオ会連絡会運営委員、日本パラスポーツ協会評議員、日本障害者リハビリテーション協会理事等就任 平成21年宮城県体育協会体育功労賞、平成22年仙台市長表彰、平成23年宮城県教育功労者表彰等受賞、平成29年仙台市市政功労者表彰、令和元年文部科学大臣表彰(スポーツの普及)、令和3年仙台市特別市政功労者表彰(社会福祉)

能登半島地震に際して

日本障害フォーラム(JDF)は13の全国規模の障害者団体・障害者支援団体で構成されています。私がJDFと知り合ったのは東日本大震災(2011年)のときです。JDF幹事会メンバーが仙台市を訪れ、私たち宮城県内の障害者団体と情報交換を行いました。そしてJDF支援センターが開設されて支援活動が展開されることにも、地元の団体との情報交換会等を繰り返し行いました。想定外の大きな被害と長期にわたる困難な避難生活の中、JDF等の支援を受け、地元の私たちはつながり・支えあうことの大切さと有難さに元気づけられました。

その後、私はJDFの一員として障害者権利条約の推進や2020東京オリパラに向けた活動、そして障害者権利委員会の対日審査の傍聴活動(2022年8月)等にも参加することができました。JDFを構成する多様な人々との出会いは私にとって大きな刺激でした。障害のある私だからこそ、できることがあると考えるようになったのです。

そして能登半島地震に際して、JDFのメンバーとして2月と5月に金沢市を訪れ、東日本大震災時にJDFの支援を受けるとともに、被災地の障害者団体が連携することの大切さ等話をしました。

ところで、過去の大規模災害時の反省によって被災者支援に関して幾つかの改善があったはずなのに、現地の方々の報告をお聞きしますと、障害があることによって様々な苦難に遭遇していることがわかりました。

国連・仙台防災枠組(2015〜2030)では、「障害者とその組織の参加はユニバーサルデザインに配慮し、多様なニーズを持つ人たちに応えることのできる防災・減災計画とその実施のために重要である」と示されています。

この度も避難生活の長期化が予想されますので、障害のある人々の多様なニーズをお聞きし、JDF支援センター(5月13日開設)と関係団体が連携し、個別的な支援とともに障害者支援事業所等への支援をもとに、誰一人取り残されないインクルーシブ防災の実現に努める必要があります。

※障がいの表記について：本コラムは著者の表記を尊重しています

CONTENTS	表紙写真	助成金贈呈式でお伺いした(一社)敬友「比内ヒルズ・ふもとの家」。ニンニク畑で、利用者さんとヤマト運輸(株)秋田主管支店佐藤主管支店長、ヤマト運輸労働組合秋田支部赤川支部執行委員長
03	2024年度 ヤマト福祉財団 助成金贈呈式 「障がい者給料増額支援助成金」を全国34事業所に 新規事業や生産性向上に必要な支援を	12 ヤマト自立センター第16回卒業者の集い 10年、20年、30年と勤続できるように
08	全国で助成金の贈呈式を行いました	13 スワン工舎卒業生訪問40 クラウン精密工業株式会社様 小さな部品と向きあう日々、優しさや責任感が表情に漂うように
10	助成先レポートVol.49 (一社)ローランズプラス 咲き方、水の吸いあげ、花はそれぞれ。つぼみの歳月も大切な時間。	14 農福連携実践塾
		15 2024年度ヤマトグループボランティアプロジェクト 地域とつながるボランティア 農業編 僕、ジャガイモを100個とったよ、まだまだできるよ



「障がい者給料増額支援助成金」を
全国34事業所に

新規事業や 生産性向上に 必要な支援を

障がいのある方が、働く喜びを感じながら自立して生活できるだけの給料を得ることができるよう。ヤマト福祉財団は、ヤマトグループの寄付や賛助会費、労働組合からの夏のカンパを活用し、さまざまな支援活動を行っています。

その一つ「障がい者給料増額支援助成金」では、新規事業立上げや生産性向上で給料増額に挑む福祉施設が必要とする設備や機器などの資金を助成。2024年度は、全国34事業所に総額1億1,182万円の助成を決定しました。

5月21日には、秋田県大館市比内町の（一社）敬友の事業所「比内ヒルズ・ふもとの家」へ。ヤマト運輸秋田主管支店の佐藤賢吾主管支店長、ヤマト運輸労働組合秋田支部の赤川裕之支部執行委員長にも出席いただき、贈呈式を開催しました。



（一社）敬友の就労継続支援B型事業所「比内ヒルズ・ふもとの家」に、障がい者給料増額支援助成金を贈呈しました



理事の麗 幸子さん(右)と管理者の田中伸夫さん(左)



自家製ダイコンをいぶすいぶりがっこ製造ハウス(上) 黒ニンニクの包装作業(下)



地域のコミュニケーションの場として、「カフェふもと」も併設

だれもが、歳を重ねると障がい者となる可能性がある

秋田県大館市は、忠犬ハチ公生誕の地として有名で、名物には天然記念物の比内鶏、きりたんぼ、天然鮎、畑のキャビアといわれるとんぶり、伝統食品のいぶりがっこがあります。

比内町へは大館能代空港から車で約30分。しばらく続いてきた雨が上がり、田んぼでは田植えの真っ最中です。のどかな田園風景のなかを車を走らせていくと比内町のシンボルであるおにぎり型の小山「達子森」が見えてきます。大館市役所・比内総合支所の近く、国道から高い丘を上がると、そこに「(社)敬友の就労継続支援B型事業所「比内ヒルズ・ふもとの家」があります。事業所の横には、いぶりがっこを生産するいぶり小屋、黒ニンニクを蒸して熟成するハウス、その奥には畑が続いています。

我々を歓迎してくれたのは、同法人理事の麗幸子さんと、ご主人で事業所の管理者・サービス管理責任者の田中伸夫さん。麗さんは「日経ウーマン」という働く女性向け月刊誌の編集長として、田中さんはフリーのテレビディレクターとして、東京でご夫婦それぞれ活躍されています。そんなお二人が、奥様が生まれ育った大館市にUターンし、障がい者福祉に携わるようになったのは、なぜなのでしょう。

「私たちは、それぞれの仕事を通してシングルマザーや高齢者、障がいのある方などを取り巻く厳しい現実を目の当たりにしてきました。そこで気づいたのは、障がいのある方が尊敬を持ち、自立して生活できる社会は、社会的に弱い立場にある方たちが心安らかに暮らせる社会でもあるのだということです。そしてもう一つ、だれもが年齢を重ねれば、障がい者になる可能性がある。だからこそノーモライゼーション

ンが大切だと考えました」。

最初に始めたのは認知症の方への介護サービス

比内町には、麗さんの父親が残してくれた、くぼくかの土地と家がありました。

「それを活用し、自分たちの手で比内町に福祉の新たな灯りをともし、地域起こしの情報発信者になつていこう」。

キャリアエンジンを決意したお二人が、最初に始めたのは、認知症対応型通所介護サービスです。きっかけは、田中さんがテレビ番組で認知症取材した際、当事者も家族もいかに大変な思いをしているかを痛感したからでした。

「まだ東京にいるころでしたが、こちらに住む志を同じくする仲間と共同で2008年に、よりあいたつこ森を開設しました」。

田中さんは、東京で社会福祉士、介護福祉士の資格を取得。2013年に比内町へ移住するまでに言語聴覚士の資格も取得しています。さらに、小さな畑を使って認知症のお年寄りのリハビリのために農作業を行えるようにもしまし



職員と一緒にニンニク畑で間引き作業をする利用者さん

た。しかし、障がい者福祉施設の開設には、まだ至りません。

「B型事業所も開設したかったのですが、作るからには、きちんと仕事を用意して、高い工賃を支払えるだけの売上を出せる事業、プランにしなければ、と決めていたのです」。

いぶりがっこの六次化を事業の柱にB型事業所を開設

そんなある日、収穫したダイコンを前に「これを使って秋田県の伝統食品・いぶりがっこを作れないだろうか」と思い立ちます。いぶりがっこは、燻製干しのたくあん。製造方法は、収穫したダイコンを小屋のなかに吊るし、2昼夜いぶりがっこの状態を続けるというもの。早速、農協に紹介してもらった生産者を訪ねた田中さんは、強い感銘を受けます。

「雪が降り積もった冬の早朝、いぶり小屋が白いもやに包まれていく風景は、実に幻想的でした。この景色を利用者さんと一緒に見ながら仕事をできたら素晴らしい。ダイコンの編み込み、燻製、漬け込み、袋詰めなど、いぶりがっこ

DATA ▶ 比内ヒルズ・ふもとの家

住所：〒018-5701 秋田県大館市比内町扇田字長岡 45
 形態：就労継続支援B型事業所
 利用者：10名
 事業内容：地元農家の委託を受け六次化事業としていぶりがっこ、黒ニンニクを製造販売。自らも農作物を生産し、カフェも運営
 助成金：500万円(+自己資金180万円)
 使途：トラクター購入費



※GI：地理的表示保護制度。その地域ならではの産品を地域の知的財産として保護する制度。

六次化事業に加え、農業にもより力を入れていく

なら利用者さんにいろいろな仕事を提供できます。すべて自分たちで加工し、販売に中間業者を入れなければ余計なマージンを取られない。良い商品さえ作れば、利用者さんの生活を安定させるだけの給料を支払うことができる、と考えました。

作り方はなんとか理解できましたが、肝心なのは「漬け込みのレシピ」です。しかし、秘伝の技は簡単には教えてもらえません。それでも厳しい冬の作業を無償で手伝い続けること3年目。熱意が伝わり「地域の伝統技を絶やさないためにも」と作り方を伝授いただくことになりました。

こうして2020年、いぶりがっこの製造・販売という六次化事業を柱にした「比内ヒルズ・ふもとの家」が(一社)敬友の事業として誕生します。

「でもいざ始めてみると、いぶりがっこの製造はかなりの重労働でした。なかでも漬け上がったダイコンを輪切りにする作業は、利用者さんと職員が力を合わせても予定通りに終わらなくて…」。

生産量は予測よりまったく少なく初年度の売上は、わずか21万円ほど。このままではとても高い工賃を払えない、なんとか改善したいと、田中さんはGIの取得に動き、いぶりがっこの組合にも加入しました。そこで組合のみなさんは、手作業ではなく機械でダイコンをカットし、大量生産していることを知ります。

「思い切った機械化が必要だと痛感しましたが、それには資金が必要です。そこで私が認定農業者になり、利用できる制度をフルに活用して対応していこうと決断しました」。

機械が入ると作業効率は格段に上がり、生産量は一気に増加。袋詰めにも人員をあてることもできるようになり、それまでは100g入り

しか作っていませんでしたが、手軽に購入できる50gサイズも用意して道の駅などに置いてもらうことにしました。これが観光客に受け、コロナ禍明けもあり、2023年度の売上は一気に20倍を超える年間約540万円に。

手応えを得たお二人は、端境期に新しい仕事をと黒ニンニクの製造販売にも着手。利用者さんが通年で働ける仕事を確保するとともに、新商品で売上をより伸ばしています。

助成でトラクターを導入 みんなで野菜を作るぞ〜!

六次化事業を軌道に乗せたお二人の次の目標は「自分たちの手で材料のダイコン、ニンニクをすべて栽培し、農業を事業のもう一つの柱にしていくこと」です。利用者さんが自主的に作った「比内ヒルズ通信」には「野菜作るぞ〜!」と、農業への意欲あふれる声が掲載されていました。

「しかし、比内町は米代川が流れ山々に四方を囲まれた盆地にあり、寒暖差が激しく冬は雪がたくさん積もります。利用者さんが無理なく農作業を行えるようにするため除雪、肥料、種蒔き、マルチの敷設、荷物の運搬などを機械の力でサポートできるトラクターとアタッチメントを購入したいと、ヤマト福祉財団さんの助成に申請したのです」。

助成通知が届くと、利用者さんも職員も手を取り合い大喜びしたそうです。5月2日には待望のトラクターが到着しました。

「それを見た近隣の農家が『立派なトラクターだね』と話しかけて来ました。そこでより畑を広げたいと相談すると『荒れてしまっているが、お宅の畑の隣の土地を使ってみるか』と言っていただけなんです。これぞうちの畑は計1haになりました。利用者さんもやる気満々なんですよ」。



助成で導入したトラクター。何種類ものアタッチメントを使って、農業の効率化、生産性が一気にアップ、除雪もできる!!



農業は楽しい!

障がい者給料増額支援助成金贈呈式・座談会



ヤマト運輸(株)秋田主管支店長(左奥)、佐藤賢吾主管支店長(左奥)、ヤマト運輸労働組合秋田支部・赤川裕之支部執行委員長(左手前)、「比内ヒルズ・ふもとの家」サービス管理者・田中伸夫さん(右手前)、比内ヒルズを運営する(一社)敬友理事・麓 幸子さん(右奥)



真空パックの作業を説明する利用者さん



いぶりに使用する桜の木。桜の木を使うとほんのり甘くなる



いぶりがっこ製造ハウスを見学

気持ちよく受け入れてくれた
地元のみなさんに恩返しを

本誌 まず、見学されたご感想からお聞かせ
いただけますか？

佐藤賢吾主管支店長(以下、佐藤) いぶりがこの製造を見るのは初めてで、こんな製法で作られているのか、ここまで手間をかけているのかと、正直驚きました。燻製する際、何本ものダイコンを編み込み、棚にかけていく作業はかなり重労働ですね。これからは、いぶりがっこも黒ニンニクももっと食べて貢献しなければ、と思いました(笑)。

赤川裕之支部執行委員長(以下、赤川) 私の地元でもいぶりがっこを生産していますが、高齢化や衛生管理の難しさから辞められる方が多いんです。でもお二人は、そんなことにもめげずに、地元の伝統商品を開拓し受け継いでいこうと前に進んでいる。その姿がすごくいいですね。生産者も先祖から継承して来た技や知恵を秘密にしないで伝えていこうとしているのが素晴らしい。

田中伸夫管理者(以下、田中) 私たちは新参者です。何度か通ってお手伝いをしながら「地の利を生かした伝統的で高価値の商品づくりを事業にし、障がいのある方に少しでも多くの給料を支払えるようにしたい」という想いを伝えました。すると、快くご協力いただけました。

赤川 そんな秘伝も教えてくれたのは、お二人の人柄もあるでしょうね。地域の方とのつながりの強さも素晴らしいと思います。

佐藤 GI取得では苦労されましたか？
麓 幸子理事(以下、麓) 基準に即して作っていることを組合に認めていただき、発行いただきました。

田中 組合に入り、衛生・品質管理や生産性向上のための機械化なども学べました。本当にいろんな方たちに支えられて、教えられて、いまがあります。絶対に恩返ししていかなければ、と思っています。

除雪もできるトラクターで
仕事を楽に、生産性をアップ

本誌 利用者さんは、どんな仕事をしているのですか？

田中 ダイコンの収穫、編み込み、吊るし、つけ込み、出荷作業などすべての工程に関わっていただいています。これらの作業を適材適所に割り振るのが、私たち職員の役割です。それでも品質管理で一部ミスが発生しました。そこで





黒ニンニクの包装作業をお手伝いする佐藤主管支店長(左)と赤川委員長(右)



ニンニクの間引き作業も利用者さんに教えていただきました

利用者さんに任せるところと、職員が担当するところをきちんと分けるようにしたんです。失敗から学ぶこともたくさんありますね。

麓 商品開発もトライアンドエラーで試行錯誤しながら、毎年改良し続けています。

赤川 50g詰めを作り販売数を伸ばしたと聞きました。他にもどんな工夫を？

田中 いぶりがつこは、歯の弱いお年寄りも食べやすいみじん切りの新製品を作りました。みじん切りだとポテトサラダに混ぜてもいいし、おにぎりにも混ぜられます。

佐藤 売上がさらに伸びて、利用者さんの給料が上がっていくと良いですね。

麓 そこで今後は、農業にもっと力を入れていこうと、ヤマトさんにトラクター導入の助成を申請したんです。

田中 農業は体力のいる仕事です。それをトラクターでカバーできればと。特にこの辺りは雪も積もりますので除雪もできるトラクターは重宝します。少しでも長く働くことができれば、生産量、売上、そして給料も上がっていくますからね。

いろいろなことが動き始めて奇跡のようですよ

佐藤 私たちは、宅配を通じて秋田を元気にしていこうと考えています。さらに、先ほどお聞きした「いつかだれもが障がい者になるかもしれない」という言葉も強く心に残りましたので、その点でも私たちにできることを一つずつ実践したいですね。

赤川 私たち労働組合が集めた夏のカンパや賛助会員の会費などは、ヤマト福祉財団に有効に使ってもらっています。これにより、障がいのある方とか健常者とか、そんな区別をしないで暮らしていけるお手伝いができたらと願っています。今日見聞きした実際に助成金が活用されている姿を紹介したら、組合員もきつと喜ぶますよ。

佐藤 そうですね。一人ひとりの善意がどう活かされているかを拝見でき、私もうれしかったですし、誇りにも感じました。小倉昌昌さんが福祉財団を立ち上げてからずっと続いているヤマトのDNAを、今後も広げていかなければと

トラクター導入で、生産から販売までの六次化を進めます！



農業も事業の柱に

- ・ 耕耘・肥料撒き・種蒔き・運搬・除雪などをこれ1台で
- ・ 畑を広げより多くの農作物を生産
- ・ 加工品の生産量も増やし給料を増額
- ・ 農福連携で地域の農業も継承 など

2023年度の実績	売上：約540万円	月額平均給料：約2万6,000円
2024年度の予定	売上：約720万円	月額平均給料：約3万円

改めて思います。
田中・麓 今回の助成には心から感謝しています。じつはトラクターが届いてから、いろいろなことがうまく動き出し始めているんです。いつか水がたまる圃場に明渠を作ったら、偶然地下水が湧き出てきました。この湧き水を使ってキリタンポに欠かせないセリの栽培も始めようという計画しています。お隣の土地を使って良いとお声がけもいただきましたし、まるで奇跡みたいだね、とみんな話しているんですよ。

北海道支部



(NPO)テレサの丘



(NPO)おはよう共同作業所

南関東支部



(一社)ふれんど



(社福)あすなるの会

東北支部



(公社)青年海外協力協会

北関東支部



(社福)杉風会

東京支部



贈呈先 団体・法人一同



(NPO)空と雲の家福祉会

中部支部



(有)チェリッシュ企画

北信越支部



(NPO)ひまわり

中国支部



(一社)グランド・マザー



(社福)敬仁会

九州支部



(社福)香月福祉会

関西支部



(NPO)サンライズ



(NPO)コンサルサポート



(社福)高潤会・(一社)ワークワーク

咲き方、水の吸いあげ、花はそれぞれ。つぼみの歳月も大切な時間。

子どもがなりたい職業で人気の「花屋さん」。その花屋を運営して、障がい者の雇用拡大に挑戦しているのが「ローランズプラス」です。ときに人生の節目を彩ることもある花を扱って、いきいきと仕事をする利用者さんたちの職場を訪ねました。

Data

一般社団法人 ローランズプラス(東京都渋谷区)

2023年度 障がい者給料増額支援助成金(353万円)

助成内容：花卉を保管するためのフラワーキーパー(冷蔵庫)および輸送用車両の購入資金
就労継続支援A型40名

売上 7,580万円/月額平均工賃(A型) 93,960円(2023年度)



新たに整備されたフラワーキーパー。鮮度管理に貢献します



利用者さんから、花束のアレンジを教わる中村委員長



ローランズプラス代表の福寿満希さん



助成で導入した配送車両。今までは軽トラで2往復していたところも、これなら1回で



1階にはカフェ併設のフラワーショップ「ローランズ」。3階は作業場になっており、束花つくりやブライダル向けのアレンジを行っています

生花で障がい者雇用を生む

にぎわう原宿駅の喧噪を背に、10分ほど歩くと閑静なオフィスエリアの一角に、お洒落なカフェを併設したフラワーショップが目に入ってきました。花に関わる事業を通して、障がい者の働く場や職域の拡大を試みるローランズです。

2013年にまず花屋として資本金100万円で株式会社ローランズを起業。軌道に乗った3年後、一般社団法人ローランズプラスを設立。つづけてその翌年に就労継続支援A型の事業所「ローランズプラス」をスタートさせました。

「当初から障がい者雇用を志して、事業を始めました」と代表の福寿満希さん。

店頭販売やフラワーギフト、ブライダル装花、観葉植物のレンタル、商業施設やビルなどの植栽管理といった株式会社ローランズの受注業務の中から、仕事を切り分けし、「ローランズプラス」の利用者さん40名がそれぞれに合った仕事を担当する仕組みです。

「結婚式のお花を手がけるとしたら、お客さまと打ち合わせをして、デザインを決定し、デッサンを起こしてという企画営業の部分を会社が引き受け、実際に花材の仕入れや管理・調整、装飾花の製作を利用者さんたちが行っています」

フラワーキーパーと車両を導入！

ローランズプラスは昨年10月、当財団の助成を利用してフラワーキーパーを、12月に大型バスを導入しました。フラワーキーパーは、低温で花の鮮度を管理する冷蔵庫です。

「通常の温度ですとバラなどは早く開きやすく、ぐっしてもロス率がアップしてしまうんです。フラワーキーパーに入れると花の保ちが1・5



カフェで提供しているスムージー。花をモチーフにしており、エディブルフラワーをあしらったものも



カフェの一角では、プライダルから戻ってきた花を再アレンジメントして販売もしています

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 44

ヤマト運輸労働組合
副都心支部執行委員長
中村 晃さん



多様な個性を持つ方が、本当はそばにいる

ブーケ作りのコツを、若い利用者さんが丁寧に教えてくれました。慣れた人にしかできない仕事ですね。お花を押さえるにも意外と力があること、触って初めて分かりました。

学生時代の経験を、福寿さんは「自分の至らぬところ」と仰っていましたが、出会いで得られる気づきの大切さを感じました。じつは私がヤマトに入社したとき、後に福祉財団を創設された小倉昌男さんは、まだ社長をなさっていました。昭和62年、最後の年かな。それで私も小倉昌男さんに対する思いは強いんです。日本国内の12人に1人は障がいのある方です。地域の中に、共生の輪を広げるお仕事をしている様をお伺いできて、胸が熱くなりました。カンパが役立っていることと一緒に、社内に発信していきたいと思います。



倍くらい長くなり、ロス削減につながられます」
大型のパン導入で、積載できる花の量も、これまでのものより1・8倍にアップ。納品業務の効率が上がりました。
導入の背景には、神奈川県を中心に全国で約70店舗を運営するスーパーマーケットと共同して、1店舗だけ任されていた束花の販売を拡大するという計画がありました。その打診に応えるためには設備の増強が欠かせませんでした。
「月に約600束を納品してはいたんですけど、2000束ぐらいになりました。また別に、新たな市場との契約もこの間にまとまり、供給力のアップがこういったことにつながっているなと思います」
花卉関連とカフェ事業の売上は2022年度の約7,180万円から、2024年度は8,340

万円を予想。利用者の月平均給料も在籍人数ベースで、2022年度の81,000円から、本年度は16%アップの見込みです。

花ほころぶ、人もほころぶ

福寿さんが障がい者雇用に関心を持つきっかけは、たまたまだったと言います。
「大学3年生のときに、単位も取れるし資格も取れる、せつかくなるといふ理由だけで特別支援学校へ実習に行つて教員免許の取得をしたんです。そしたら価値観ががらつと変わったというか……福寿さんが実習に行つた特別支援学校の就職率は当時15%ほどだったそう。
「自分はずっと学生でいたいと思ってはいたんですけど、働くことを夢みたいに思つて目をキラキラさせている子どもたちを前にして、『働

くつて誰にとつても当たり前前のことではない！』って」。

それが『将来さういった受け入れ先となれるような会社を自分で作りたいな』と思うにいたつた福寿さんの原体験になりました。卒業後に社会人を2年経験。新人として忙しい日々を送る中で、通勤途中の花屋に心を癒され、生活に花を採り入れるように。気がつけば、フラワーアレンジメントのレッスンにも通うほどのめり込んでいました。

起業は自宅の一角でフラワーギフトのみからのスタート。やがてスタッフを抱えるようになり、会社も安定してきたことから、障がい者雇用を始めようと言いついたところ、
「スタッフがみな辞めてしまつたんです。ふつうに花屋さんとしてやっていて、『障がい者雇用

をしたくて起業したと、それまで私がスタッフの誰にも話していなかつたため、目標の共有ができていなかったんです」。

しかし、そこから「福祉に関心のない人たちに、もいいなと思つてもらえるような商品を作つて、障がいのあるなしに関わらず一緒に働き、暮らしていけると証明すること、イメージを変えていくことが大事」と、強く感じた福寿さん。

「花は一つひとつ全然ちがうんです。花と向きあうには、その違いをよく見極めることが大切です、それは人との向き合い方でも同じ。そうした部分をいま、グループ内できちんと言語化している最中です」。

誰もが、自分らしく咲ける——。花を愛する眼差しから導きだした目標が、ローランズプラスにはあります。

10年、20年、30年と勤続できるように

4月20日、2023年度に(社福)ヤマト自立センターから企業に就職したスワン工舎新座の6名とスワン工舎羽田5名、また永年勤続者を表彰する「第16回スワン工舎卒業生の集い」を開催しました。会場の志木市民会館(埼玉県)には、歴代卒業生、来賓、関係者など125名が参加。さらに、就労先の企業のみならずにも出席していただきました。



新卒者の修了証を受け取って記念撮影



10年以上働いて来た永年勤続者には、記念メダルも贈呈



「栗原さんにしかできない仕事もたくさん頼んでます」と就労先のアマゾンジャパン様(右)



当日参加できた歴代卒業生80名と新卒者6名、さらにご家族や関係者も一緒に記念撮影



永年勤続表彰を受けた福井さん(左)、外山さん(左から2番目)と就労先の(株)ヤオコー様(右)

スワン工舎と卒業生を応援し続けます

「今年の春で卒業生は255名になりました。みなさんは、ヤマト自立センターと一緒に学んだ大切な仲間ですから、このつながりを大事にしてください。これからも私たちは、みなさんを応援し続けますよ」と、山内理事長が開催の挨拶を行いました。

私たちは、名前を読み上げられるとステージの上へ。一人ひとり緊張した面持ちで、山内理事長から修了証を受け取りました。

みんな職場のかけがえのない存在に

今回は、初めての試みで永年勤続者の就労先の方をご招待して表彰することになりました。13名の永年勤続者とご家族、そして就労先の企業の方も一緒に登壇。表彰された永年勤続者には、働き続けるための秘訣などを伺うことに。

「人の話をよく聞く」「つねに諦めず前向きでいる」「無茶をせずケガをしない」「笑顔を忘れない」「きちんとメモを取り、わからないことは周りに聞く」など、日々心がけていることを教えてくださいました。

企業のみならずからは「彼がいなくてみんな困る、頼りにしていると従業員は話しています」「テキパキと仕事ができる方、丁寧でミスをしないう方、それぞれが個性を發揮してくれています」「毎日100%で頑張るのは難しい、ときには自分を甘やかすのも大事」「他の従業員と力を合わせ安全第一でいきましょう」「10年と言わず、20年30年ともっと一緒に働いてほしい」などの言葉をいただきました。

表彰式のあとは、クイズ大会も企画した楽しい懇親会へ。自立センターの高橋前業務執行理事が「同期の仲間だけでなく、先輩後輩もわけ隔てなく懇談いただいて、より強く太い絆を築いてください」と挨拶。会場からは、卒業生とご家族、サポートを続ける就労先の企業の方や職員に向けて、あたたかな拍手が贈られました。

参加された永年勤続者の就労先

株式会社ヤオコー、アマゾンジャパン合同会社、株式会社武蔵野フーズ、スポーツクラブNAS株式会社、ヤマト運輸株式会社、株式会社スワン

クラウン精密工業(株) / 1960年に設立、開発～製造までを行う締結部品(ねじ)の総合メーカーです。タッピンねじを中心に国内外で多くの特許を取得。電気、事務機メーカーのほか、ボッシュや富士部品工業といった自動車関連企業に製品を納めています。



職場のみなさんと、前列中央が出嶋一之さん

小さな部品と向きあう日々、 優しさや責任感が表情に漂うように

大学では電気工学を学び、真面目で几帳面なタイプの出嶋さん。人命にも関わる「ねじ」の検品で、社内から全幅の信頼を置かれる仕事ぶりで活躍しています。

■社会福祉法人ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

「今の仕事は自分に合っています。一個ずつ検査して数をこなすみたいなき感じは」と、笑う出嶋一之さん。「クラウン精密工業に入社して2年半。昨年12月からは勤務時間を延長し、週5日、フルタイムで働いています。出嶋さんが従事するのは「選別」と呼ばれる検品作業。検査用の治具に、一つずつはめて回すことで確認。不良品を弾きます。このねじは、自動車のブレーキプースターに使われる重要部品。生命に関わる部品なので、機械による画像選別とは別に、人手による全数選別を行っています」と、総務部長の羽切寛行さんが解説してくれました。ブレーキプースターは倍力装置とも呼ば

凝り性な性格ともベストマッチ 責任ある仕事に毎日励む



「朝は弱いんですが…」と出嶋さん。主治医にもお墨付きをもらってフルタイムに。



左手に持った治具の頭部に、差しこまれたブレーキプースター用のねじ。これで不良品を見つけます。

出嶋 一之 さん クラウン精密工業株式会社(2022年1月10日入社)

好きな巨人軍や、藤井聡太七冠の成績をPCで管理。データから過去を振り返るのが楽しいのだそう。話題の本には必ず目を通す読書家でもあります。多趣味のせいで寝不足、朝が弱いのが悩みの種です。



「うちは残業がほぼないので、みな定時で上がるけど、出嶋さんは時間を忘れて仕事をするタイプ、古風な…」と羽切部長。

水が合う場所を見つけ、出嶋さんは機械を学び直したいと近ごろ考えています。

れ、ドライバーがペダルを踏みこんだ力を、何倍にも増幅するのが役目。倍力装置には気密性が求められ、内部は真空に近い状態になるので、ねじの精度も格段です。出嶋さんは、今やこの検査室の主力の一人です。

羽切さんは、出嶋さんのコミュニケーション能力が、採用の決め手だったと語ります。

「8〜10畳ぐらいの検査室で、選別作業を日常的に行うわけですから、周囲と折り合いがつかないと難しい。もちろん真面目さもですが、出嶋さんは明るくて気さく。研修期間でも、みんなの評判が良かったんです」

正確性に加え、スピードも成長しました。じつは、どのぐらいの数をこなしているか、出嶋さんは個人的にデータを記録し、コンピュータで統計を取っているのだそう。

「二から仕事を教わった柳さんからは、ノルマはないんだから、自分を苦しめるだけだと言われるんですけど、気になるので(笑) できること、仕事の手を広げることにより甲斐を感じるという出嶋さん。

「僕は電気工学科だったんですけど、最初のバイトは空調関係で機械。その後もみんな機械で。思い返してみれば父親の仕事も機械関係。だから父の通った道なんですけど…」

農福連携実践塾

第2期ぶどう栽培塾は、4月に第2回、5月に第3回研修会を開催。たまねぎ栽培塾は、6月に新塾生を迎え、第2期としてのスタートを切りました。

第2期ぶどう栽培塾

先輩の取り組み方を自施設での実践の参考に

第2期ぶどう栽培塾の第2回・3回研修会は、第一期塾生施設で、現場指導を行います。
 第2回は4月24・25日、大阪府柏原市にある第一期生「ディーセント・ファームかしわら」へ。
 ここは、ぶどう栽培や体験農園などを行っていますが、まだ栽培方法や販売にいろんな課題を抱えています。林塾長は「地域の方も巻き込んで、納得いくところまでやってみると良い」とアドバイスをしました。

第3回の5月16・17日は福島県伊達市の第一期生の施設へ。（社福）ひろせ福祉会は、アスパラガス、シャインマスカットの栽培、あんほ柿の製造を柱に通年で仕事ができるようになっています。30aのぶどうハウスで林塾長が新梢管理と摘芯作業について実演しながら栽培管理の説明をすると、塾生から次々と質問があがりました。
 翌日は、アスパラガスの収穫を体験。最後に林塾長は「今回の見学で、今後の課題も明確になったと思います。地域の農業を福祉施設が担っていくために、私たちに何が求められているのか。それぞれ改めて見つめ直してください」と参加者全員に呼びかけました。



ディーセント・ファームかしわら



ひろせ福祉会



第2期第1回たまねぎ栽培塾

利用者さんの数だけいろいろなやり方ができる



6月7・8日、12名の新塾生が、群馬県の小淵塾長の事業所・菜の花に集合。これからのたまねぎ栽培の専門知識と技術、さらに利用者さんの支援方法など、福祉施設が農業で成功するノウハウを実践的に学んでいきます。
 初日、塾生たちは、たまねぎ収穫を体験。収穫には振動掘取機、ピッカーなど機械を使い、収穫後の出荷作業もベルトコンベアなどを活用し、働きやすく生産性の高い環境を整えています。
 夜には自己紹介として、今後の目標などを発表することに。

「自分たちが育てた野菜を運営するカフェでお菓子と一緒に売っていきたい」「畑は小規模なので、お金になるたまねぎに力を入れた」「安定したたまねぎを栽培するコツを学びたい」など、各自さまざまな声があがりました。
 翌日は、小淵塾長が菜の花での取り組み方を解説しました。
 「利用者さんの特性を活かせるようにいろいろ工夫しています。同じたまねぎ栽培でも、施設でのやり方は違って良い。農福連携は多様であるべきなのです。利用者さん一人ひとりの力は弱いかもしれませんが、全員が揃うと強いですよ」と小淵塾長。

地域とつながる

ボランティア

茨城支部

僕、ジャガイモを100個とったよ、
まだまだできるよ

6月15日 株式会社百笑会 まめの木農園(茨城県)



DATA 株式会社百笑会 まめの木農園 茨城県石岡市鹿の子2-2-29

財団では、ヤマト運輸労働組合と連携し、地域にある福祉施設とボランティアを通じて繋がり、交流を深めていくボランティアプロジェクトを進めています。4年目となる今年の農業編は茨城県と青森県の施設で農作業のお手伝いをします(今回ご紹介するのは茨城県のまめの木農園)。

6月15日、茨城県石岡市にある(株)百笑会まめの木農園で、ヤマト運輸労働組合茨城支部のみなさん20名うちお子さんが10名が参加し、ジャガイモの収穫をお手伝いしました。晴天に恵まれ、真夏のような暑さでしたが、2時間で1反、男爵イモ約500キロの収穫を完了しました。

まめの木農園は、B型の障がい者施設として昨年開設したばかり。無肥料・無農薬・無除草剤の自然栽培を行っています。「昨年のジャガイモ栽培は病気が出て、収穫がゼロ。失敗に負けず、今年は3月に太陽熱マルチで土を消毒し種芋を植え付け、大事に栽培を行ってききました」とまめの木農園の北林峻さん。

茨城支部の大滝支部執行委員長は、「慣れない収穫ですが、子どもたちも気にせず土に触って、楽しんでくれて良かった。我々は地域で集配をしていますが、施設でこのような事業を行っているということは分らないと思います。今回ボランティアに参加して、新たな繋がりを持ったと思う。支部としても忙しい時の応援や交流など未永くおつきあいをしたい」と話しています。

最初は人見知りをして利用者のさんも、最後は、一緒に写真をとったり握手をしたり…。秋のサツマイモの収穫ボランティアも楽しみます。



「心の中から希望が切り離されないように」

藤井克徳詩集 合同出版 著者 藤井克徳

ヤマト福祉財団評議員で、日本障害者協議会代表、きょうされん専務理事藤井克徳さんの初めての詩集です。ウクライナへのロシア侵攻をきっかけに「市民の一人として、何かできることはないか」と、詩が編み出されました。「戦争のない平和な社会を」、「人権が尊重される社会へ」、「少年時代の思い出」、「子どもに向けた詩」など、藤井さんのメッセージが50余編に凝縮された一冊です。



第25回

ヤマト福祉財団小倉昌男賞 推薦募集

推薦募集期間：6月1日～8月31日



正賞：雨宮 淳氏作 ブロンズ像「愛」 副賞：賞金100万円

障がい者の自立支援などで、「この人をぜひ・・・」と思われる方を ふるってご推薦いただきますようお願いいたします

障がい者の仕事づくりや雇用の創出、拡大、労働条件の改善などを積極的に推し進め、障がい者に働く喜びと生きがいをもたらしている人の中から、毎年2名の方に「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」を贈呈しています。「この人こそ・・・」と思われる方がおられましたら、ぜひご推薦くださいますようお願いいたします。

※詳しくはホームページをご覧ください。第24回の贈呈式の模様もご覧いただけます [ヤマト福祉財団ホームページはこちら](#) ▶



2025年度ヤマト福祉財団助成金を募集します

応募期間：2024年10月1日(火)～11月30日(土) ※当日消印有効

障がいのある方が
「自立して生活することで幸せを感じられる」を大切に

障がい者給料増額支援助成金 50万円～上限500万円

障がい者福祉助成金 上限100万円

ヤマト福祉財団は、福祉施設・団体の方々へのお手伝いとして、障がいのある方々の給料を増額するための新規事業の立ち上げや生産性向上に必要な設備や機器を購入する資金と、障がいのある方々の福祉を増進するための事業や活動の資金を助成します。詳しくはホームページをご覧ください。

2024年度 障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

「人は自立して生活することで
幸せを感じられる」
いま改めて「働く意味」を問う



開催のお知らせ

大阪会場 | 8月22日(木) 10時～17時
マイドームおおさか(大阪市中央区本町橋)

フォーラムの様子は、8月23日
日よりヤマト福祉財団ホーム
ページで順次公開します



読みやすさを追求した書体